

初年次キャリア教育科目における 「文章の書き方」講義の実施報告

松 木 利 憲

Implementation report of “Writing sentences” Lecture at the first-year-grade subject in Career education

Toshinori MATSUKI

要旨

電気通信大学の倫理・キャリア科目であるキャリア教育基礎では、学内の要請により 2016 年から「文章の書き方」を主題とするアカデミックライティングの講義を導入した。キャリア教育基礎は 1 年次に履修可能となる唯一の倫理・キャリア科目であり、初年次教育の役割を担っている。学生には、15 回の講義で毎回講義内容（多くがキャリア教育に関するもの）に沿ったテーマに対して、講義内で指導している「文章の書き方」に沿ってのレポートの作成と提出を求めている。ここではキャリア教育科目の「文章の書き方」で実践されているアカデミックライティングの教育内容および学生の文章作成能力向上のための仕組みの報告を行う。また、学生の文章作成能力の維持も触れていく。

キーワード：アカデミックライティング、アクティブラーニング、初年次教育、キャリア教育、学習ポートフォリオシステム

Abstract

We introduced a lecture on academic writing as the theme of “writing sentences” for Career Education Basics in Ethics / Career subject at the University of Electro-Communications, from 2016 for the request of the Career education work group.

Career Education Basics is the only subject in Ethics / Career subject that can be taken in the first year, and plays the role of first year education. Students are required to prepare and submit a report for each of the 15 lectures on a theme that is in line with the content of the lecture (mostly related to career education), in line with the writing style of the sentences taught in the lecture. We will report on the educational content of academic writing practiced in “writing sentences” in the career education subject and the mechanism for improving students’ writing skills. We will also touch on maintaining students’ writing skills.

Keywords : Academic writing, Active learning, First-year-education, Career Education, e-Portfolio System

1. はじめに

1-1. 電気通信大学のキャリア教育と「文章の書き方」

本報告は、国立大学法人電気通信大学（以後、本学）の倫理・キャリア科目内で実施している「文章の書き方」のうち、特に1年次における取り組みを紹介するものである。

本学のキャリア教育科目は2005年度に自由科目として開始した。[1] 2011年より2015年まで倫理キャリア科目10単位を必修としていた。[2] 2016年の学科改組以降、4単位を選択として卒業要件として課している。

キャリア教育基礎（以下CEB）は、倫理・キャリア科目のうち1年次で履修可能となっている唯一の科目である。2016年の学科改組の際に選択科目となった。学科改組にあたり、キャリア教育検討ワーキンググループによってキャリア教育のあり方が検討された。最終答申では、以下の内容が記載された。

レポートの添削講評の実質化を図る。レポートなど「文章の書き方」については、全体講義の1回を行うほか、講義回によってレポートが課されている。クラス人数を20名と少人数制にすることにより、レポートの書き方についての指導を充実、徹底させる。

（中略）

「問題解決・自己開拓力」「コミュニケーション力」を育成し、1年次からレポートの書き方など「技術者教養力」を育成するものが現在の科目連携性である。

Table. 1 キャリア教育基礎の履修者数

入学年度	1年次CEB履修			2年次CD履修			連続履修者数
	履修者	特任講師数 (教室数)	特任講師あたり 担当学生数	履修者	特任講師数 (教室数)	特任講師あたり 担当学生数	
2016 (H28)	594	18 (7)	33	213	17 (8)	13	151
2017 (H29)	260	13 (5)	20	218	20 (10)	11	25
2018 (H30)	285	17 (8)	17	197	18 (9)	11	39
2019 (H31)	298	18 (9)	17	185	16 (8)	12	26
2020 (R02)	253	20 (10)	13				

※2020年度前期CEBは完全遠隔講義（Zoom）で実施

最終答申で示された学生のコミュニケーション力、技術者教養力の強化として、レポートの書き方が提示され、具体的施策として「文章の書き方」の導入を1年次CEBと2年次キャリアデザイン（以下CD）に行った。

2016年度以降、「文章の書き方」を導入したCEB、CDの履修者はTable. 1の通りである。答申が出された2017年度以降は、特任講師（1-3.にて記載）ひとり当たりの担当学生数を最大20名として運営を行っている。

CEBの主題は「1)進路選択に必要な社会への理解と自己理解を進める 2)大学での学びに必要な基盤を身につける」としており、主題に対応した達成目標、成績評価方法および評価基準をTable. 2のように設定した。キャリア教育的な内容とともに、答申として出されているコミュニケーションに関する達成目標を記載した。[3]

1-2. 学習ポートフォリオシステム（@Univ）

CEB、CDの講義では、Figure. 2で示される独自の学習ポートフォリオシステム（@Univ；アットユニヴと呼称している。以下システム）を使用している。このシステムはCEBの授業運営を主眼としたものであり、特任講師、学生のコミュニケーションを促す、利便性の高いものになっている。[4]

学生のレポート、ワークシート等講義での成果物ともに、特任講師からのフィードバックも保管し、特任講師と学生のコミュニケーションの手段として活用されている。

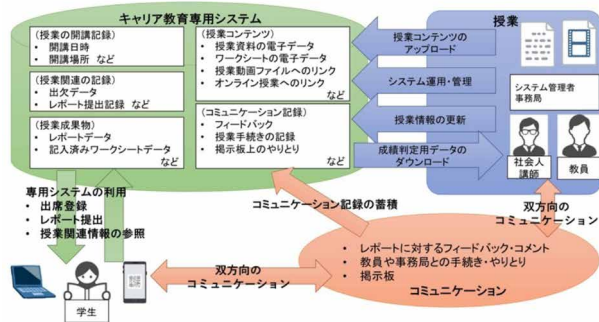


Figure. 2 @Univの概要

Table. 2 キャリア教育基礎の達成目標および評価

	達成目標	成績評価方法および評価基準		
		(a) 構成する要素		(b) 評価の要素
1-1)	社会・企業・職業について理解し、社会で必要とされる行動を実践することができる	事業所見学での取り組み	20%	- 事業所見学におけるグループワークや発表の状況 - 事業所見学での講義レポート - 事業所見学でのワークシート
1-2)	社会・企業・職業について自分なりの考えを説明することができる	事業所見学ふり返りでの発表	20%	- 事業所見学ふり返りでの発表
2-1)	社会で必要となるコミュニケーションスキル（聴く、話す、読む、書く）が実践できる。	講義におけるコミュニケーションの質	40%	- 講義レポート・ワークシートの内容点 - 講義におけるグループワークや発表の状況
2-2)	大学生活に必要なルール・規律・習慣を身につけ、実践することができる。	各回の講義への参加状況およびレポート・ワークシート等提出物	20%	- ワークショップへの参加状況（欠席・遅刻・早退などによる参加時間） - 未提出・期限遅れでの減点

1-3. 特任講師（教務補佐員教育ボランティア）の役割

特任講師（教務補佐員教育ボランティア）は、民間企業等の経験がある方を任用している。

講義では、1教室に2名の特任講師が入り、少人数制ワークショップのファシリテーションを担当する。講義では、自身の社会での経験から講義内容を踏まえて発言する機会もあり、複数の社会経験を伝える意図で2名での教室運営を行っている。また、突発的な事象で来学できない場合の講義運営に備えている面もある。特任講師は、週1日の勤務であり、科目担当教員とのコミュニケーションを行うため、初回講義前にFDを行っている。Figure. 3は初回講義前のFDにおける資料一覧の一部であるが、半期の主題、達成目標および講義内容や運営における注意点を共有している。

#	資料名
0.	最初に
00	2021/4/12 リハーサル資料一覧
01	特任講師／学生 TA 組合せ・教室配置
02	特任講師の役割
03	学生からのフィードバック(学生による授業評価/最終回レポート)
1.	キャリア教育基礎について
11	倫理・キャリア教育科目 履修科目関連図
12	特任講師・学生 TAとしての心構え
13	講義の流れ
14	講義設計の前提、留意事項
15	シラバス
16	キャリア教育基礎 講義概要
2.	特任講師の業務関連
21	コメントのしかた
22	レポート採点のしかた
23	言動評価のしかた/言動評価入力テンプレート/遠隔による懇談会 学生言動記録用メモ
24	連絡票の取り扱い
25	出席簿(サンプル)
26	教室レイアウト
27	業務一覧
3.	令和3年度(2021年度) 学事日程など
31	授業時間割 昼間コース1年 前学期 第1学期
32	学事日程等
33	「第1次プログラム配属」要項

Figure. 3 キャリア教育基礎でのFD資料名（一部）

各講義回の前後にはFDを行っている。講義前のFDでは当日の講義に関する連絡事項を共有し、講義後のFDでは講義での学生の反応などを共有している。また、教員から特任講師に対し、次回以降の講義内容の説明を行っている。

FDの頻度を高めることで、講義案やコンテンツを作成しているキャリア教育担当の教員とのコミュニケーションを図り講義運営および学生とのコミュニケーションの質の向上を図っている。

2. 「文章の書き方」講義

2-1. キャリア教育科目の講義構成

2016年の「文章の書き方」の開始以降、講義内容は試行錯誤しているが、2017年度以降はFigure.4の講義構成で実施されている。

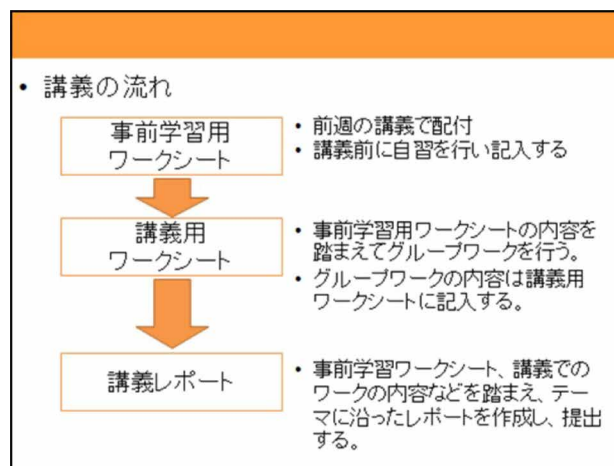


Figure. 4 キャリア教育科目での学生の提出物

CEB、CDでは、各回の講義で前回の講義で配布した事前学習用ワークシート（宿題）を基に講義内でグループワークを行い、講義用ワークシートに記入を行う。学生は、講義翌日までに、講義レポートをシステム上に入力して提出する。入力された講義レポートに対して、特任講師は次回の講義までに講義レポート内容に即したフィードバックをシステム上から行う。

2-2. キャリア教育基礎のレポートテーマと文字数

講義では、CEBの主題「1)進路選択に必要な社会への理解と自己理解を進める。」に沿った講義内容の傍ら、「2)大学での学びに必要な基盤を身につける。」の達成目標である「2-1)社会で必要となるコミュニケーションスキル（聴く、話す、読む、書く）が実践できる。」に「文章の書き方」が関わっており、主題1)で学んだ内容を文章化する際の具体的なスキルとなる。

2019年度のレポートテーマはTable. 3の通りである。学生は制限文字数を満たしたレポートを作成した場合、最大7500字を記入することになる。

Table. 3 2019年度レポートテーマと文字数

講義 タイトル	テーマ	制限 文字数
01_初回ガイ ダンス	1. 電気通信大学に入学した理由	200字以上
	2. 1. に記述した内容で最も近いものはどれか。	選択
	3. キャリア教育基礎を履修して得たいこと	200字
02_自己紹介 ／グルー プワーク のしかた	1. 自己紹介をしてみてもどのような感想を持ったか	200字
	2. グループワークをしてみてもどのような感想を持ったか	200字
03_話し方・ 聴き方／ 文章の書 き方(1)	1. これまでの自分の「聴き方」を、今後、意識して変えたい(改善したい)点はあるか。	200字
	2. 前回までの講義レポートを振り返り、今後どのような点に留意し、講義レポートを書くか。	400字

04_図書館実習	1. 学生の図書館利用(入館、図書貸出)を促進するための方策を考える。	400字
	2. 以降は実際に図書館にて図書の貸出を行って進めること。 2. 貸出を行った図書のタイトル	箇条書き
	3. 貸出された図書の請求記号(図書の背に貼られているシールに記載されている英数字)	箇条書き
	4. 貸出された図書の資料ID(図書貸出の際に読み取るバーコード上に記載されている数字)	箇条書き
	5. 貸出された図書の紹介文	200字
05_(学年横断) 大学生活の送り方(1) / 研究室を知る	1. 上級生(3年生、学生TA)からの経験談、アドバイスを踏まえ、学生生活をどのように過ごしていくか。	400字
	2. 学生TAの研究室に関する発表を聴いてどのようなことを感じたか(200字以内)。	200字
06_生活時間記録簿振り返り / 研究室を知る(2)	1. 生活時間記録簿の内容を踏まえて、自分の生活習慣で今後も継続したい点、改善したい点を挙げる。(200字以内)。	200字
	2. 自分の進路として、進みたい類、プログラム、研究室はどこか。(400字以内)。	400字
07_(外部講師講演) 大学生活の送り方(2)	1. この講義を履修していない学生に対し、本日の講演内容を伝えるとしたら、どのように伝えるか(100字以内)	100字
	2. 本日の講演で得たことの中で、今後もっとも活かしていきたいことは何か。	400字
08_職務適性テスト振り返り	1. 自分はどんな特徴を持っているか。ポジティブな言葉で説明すること。今後、その特徴をどのような場で発揮していくか。	400字
	2. 自分が興味をもった職種は何か。職種のみ1つ回答すること。	選択
	3. 2に記入した自分が興味をもった職種が含まれるテスト結果表の職務適性適合分野は何か。解説書P. 4の表から該当するものを選択する。	選択
	4. 2で上げた職種で、どのように自分の特徴を発揮していくか。	200字
09_企業を知る	1. 本日の講義を踏まえて、『企業に対して、感じていること』に変化はあったか。	400字
	2. 事業所見学に参加した際に、電通大OBを中心とした若手社員との懇談の機会が設けられる。電通大OBにどのようなことを質問し、何を聞いたか。	200字
10_働くということ	1. 自分にとっての労働価値で最も重要な価値は何か。	選択
	2. それはなぜか。(200字以内)	200字
	3. 将来仕事に就いたときに、どう取り組んでいきたいか。	200字
	4. 将来仕事を選ぶときにどういった観点で選ぶか。	200字

11_事業所見学ガイダンス / 文章の書き方(2)	1. これまでのレポートを振り返り、第3回のレポートで記載した改善事項を実行できたか。	200字
	2. キャリア教育基礎のレポート提出を通じて、大学入学時と比較して、文章を作ることについてどのような変化があったか。	400字
12_前期まとめ / 夏季休業期間の送り方	1. キャリア教育基礎の履修を振り返り、前期で最も変化(成長)を感じた部分は何か。	400字
	2. この夏季休業期間の目標は何か。SMARTを意識して書く	箇条書き
13,14_事業所見学	1. 事業所内の見学で印象に残ったことは何か。(200字以内)	200字
	2. 若手社員との懇談会で行った質問を書く。質問毎に改行し、相手からの回答内容は書かない。	箇条書き
	3. 若手社員との懇談会で印象に残ったことは何か。	200字
	4. 事業所見学への参加(事前学習、事業所内の見学、若手社員との懇談会)を通じて学んだことは何か。今後の大学生活にどのように活かしていきたいか。	400字
	5. 事業所見学での満足度はどれくらいか。5(満足した)～1(不満だった)から選択する。	選択
	6. 5を選択した理由を書く。	200字
合計文字数		7500字

2-3. 「文章の書き方」における教育内容

「文章の書き方」講義においては、2017年度以降、課題に対して主題(結論)→理由→根拠とした構造で文章を作るよう指示を行っており、Figure. 5のスライドを学生に提示している。レポートテーマに対して、まず、結論となる主題から記載する構成としており、レポートの1文目は、必ず課題に対しての結論が記載されることが期待される。

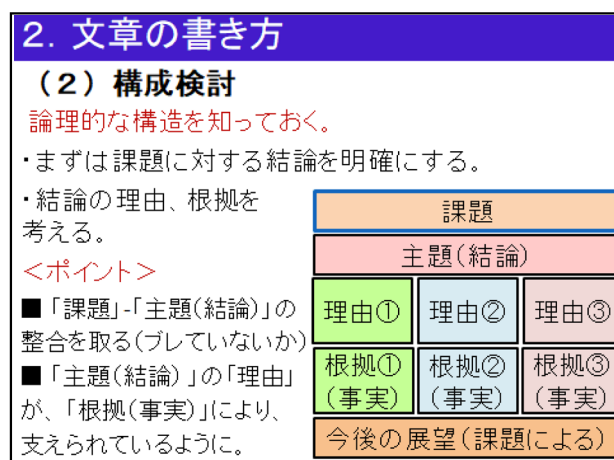


Figure. 5 「文章の書き方」 文章の構成

2-4. 「文章の書き方」における教育手法

2-4-1. 特任講師によるフィードバック

特任講師はTable. 1で示された学生数を担当する。特任講師は、講義内容の理解を踏まえ、学生自身の考えが表明されているか、また文章としてTable. 4でのチェックポイントが踏襲されているかフィードバックを毎回の講義で提出されるレポート毎に行う。

フィードバックはシステム上で行われ、学生は、システムにログインするか、事前にシステムに登録したメールアドレスへの配信が行われる。Table. 4のチェックポイントは、2018年度から講義で学生にも示している。

Table. 4 「文章の書き方」におけるチェックポイント

分類	チェックポイント
構成	1. 字数を満たしているか（制限文字数の80%以上）
	2. 結論が課題に対して合致し明確になっているか
	3. 結論には適切な理由・根拠が示されているか
	4. 文章の論理的なつながりができているか
文章	5. 具体性のある内容になっているか
	6. 主語、述語が正しく使用されているか
文字	7. 誤字・脱字（変換間違い）はないか

2-4-2. 学生によるセルフレビューおよびピアレビュー

講義では、特任講師からのフィードバックばかりではなく、講義の中で提出したレポートをまとめた一覧を配布し、セルフレビューおよび学生同士のピアレビューを行う機会も設けている。セルフレビュー、ピアレビュー後は、学生自身に改善事項をレポートとして具体化させている。

講義では、提出したレポートの振り返りを講義期間中2度以上行っている。振り返りは、システムに提出したレポートを学生ごとにまとめ印刷し、配付する。学生は、配付されたレポートの一覧を閲覧し、良い点、悪い点、次に向けて意識する点（良い点を継続するにはどうするか、悪い点を改善するためにはどうするか、具体的なアクションを記載する）を考えさせている。その際に、学生同士のペアを組んで、ピアレビューを行う時間も確保している。

3. 「文章の書き方」の効果

3-1. 履修期間後の学生の自己評価

本学では、講義終了時に学生による授業評価を実施している。学生による授業評価では、自由設問を設定することができる。「文章の書き方」の講義および毎回のレポート作成により、履修前と比較して文章を書く力が向

上したと思いますか。」という設問を5（文章を書く力が向上した）～1（文章を書く力が向上しなかった）の5段階の選択項目で設定した。「文章の書き方」を導入した2016年から、履修学生の評価はFigure. 4の通りである。「文章を書く力が向上した」と回答した学生が増加し、「変化しなかった」、「文章を書く力がやや向上した」と回答した学生が減少している。しかし、2020年度は、その傾向から変化がある。2020年は完全遠隔講義になっており、通常実施しているセルフレビュー、ピアレビューが十分に行えていない。また、学生による授業評価ではオンラインでの回答ということで、十分な回答数がなかったことも一因と考えられる。

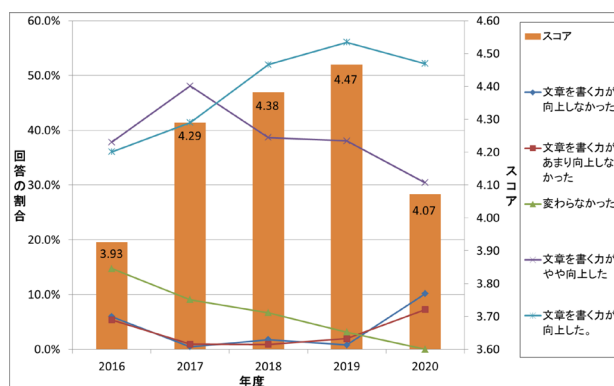


Figure. 6 自己評価の推移

3-2. 履修期間後の学生の文章作成力の維持の有無

2年次後期CDの初回ガイダンスに出席し初回のレポートを提出している学生を、1年次のCEB履修者、非履修者の間で比較を行う。

尚、現在と同じ講義構成であり、特任講師からのフィードバックもなされた2017年度入学者以降（2017CEB、2018CD履修者）でTable. 4のチェックポイントのうち、「1. 字数を満たしているか」「2. 結論が課題に対して合致して明確になっているか」を比較する。前者はレポート文字数で判断し、後者は、レポートの1文目に結論となる事象が書かれているかどうかを筆者で判断した。レポートの分析はTable. 1で示した履修者数と必ずしも合致していない。理由はCD初回レポートの提出者数は初回ガイダンスに出席した学生のものであり、すべての提出者が履修していないためである。

1年次の「文章の書き方」が維持されるかは、2017年度入学生は履修者、非履修者に差異はなかった。しかし、2018年度、2019年度の入学者は、非履修者と比較して満たしている割合が高かった。

2017年度は現在の「文章の書き方」の形態となった初年度であり、2018年度以降、特任講師のフィードバックの質が向上したためとも考えられる。

Table. 5 2019年度入学者の文字数制限に関する達成度

文字数制限		19CEB最終回 レポート		19CEB 非履修	合計
		満たした	満たして いない		
20CD 初回 レポート	満たした	31 89%	0	88 56%	119 62%
	満たして いない	4 11%	0	68 44%	72 38%
合計		35	0	156	191

Table. 6 2019年度入学者の結論に関する達成度

レポート冒頭での 結論提示		19CEB最終回 レポート		19CEB 非履修	合計
		満たした	満たして いない		
20CD 初回 レポート	満たした	28 93%	5 100%	83 53%	116 61%
	満たして いない	2 7%	0	73 47%	75 39%
合計		30	5	156	191

Table. 7 2018年度入学者の文字数制限に関する達成度

文字数制限		18CEB最終回 レポート		18CEB 非履修	合計
		満たした	満たして いない		
19CD 初回 レポート	満たした	31 84%	0	87 51%	118 57%
	満たして いない	6 16%	0	84 49%	90 43%
合計		37		171	208

Table. 8 2018年度入学者の結論に関する達成度

レポート冒頭での 結論提示		18CEB最終回 レポート		18CEB 非履修	合計
		満たした	満たして いない		
19CD 初回 レポート	満たした	27 85%	4 80%	83 49%	114 55%
	満たして いない	5 15%	1 20%	88 51%	94 45%
合計		32	5	171	208

Table. 9 2017年度入学者の文字数制限に関する達成度

文字数制限		17CEB最終回 レポート		17CEB 非履修	合計
		満たした	満たして いない		
18CD 初回 レポート	満たした	23 62%	0	114 62%	137 62%
	満たして いない	14 38%	0	70 38%	84 38%
合計		37	0	184	221

Table. 10 2017年度入学者の結論に関する達成度

レポート冒頭での 結論提示		17CEB最終回 レポート		17CEB 非履修	合計
		満たした	満たして いない		
18CD 初回 レポート	満たした	23 65%	2 67%	113 61%	138 62%
	満たして いない	11 35%	1 33%	71 39%	83 38%
合計		34	3	184	221

4. 今後の課題

キャリア教育基礎では、「文章の書き方」に継続して取り組んでいるが、2019年度入学までの学生と2020年度入学の学生で作成している文章の質に差があるのかは検討が必要である。システム上の特任講師からのレポートへのフィードバックは教室講義、遠隔講義関係なく継続しているが、遠隔講義では、教室講義でのセルフレビュー、ピアレビューは行えない。

また特任講師による、フィードバックの効果は今後検証が必要である。学生の変化を生むコミュニケーションとしてのフィードバックとして影響力が大きいものを見出し、学生指導に活かしていきたい。

参考文献

- [1] 山田祥之，竹内利明，皆川昭俊：電気通信大学における産学官連携によるキャリア教育の取組み，工学教育，60-1，2012年1月
- [2] 2014学修要覧（電気通信大学），2014年3月
- [3] キャリア教育基礎 シラバス，http://kyoumu.office.uec.ac.jp/syllabus/2021/31/31_21018131.html，2021年9月1日取得
- [4] 山田祥之：電気通信大学におけるITを活用した産学連携による課題解決型授業の実例報告，電気通信大学紀要，30（1），44-51，2018年2月1日